# 政策対話(建設部)の概要

#### 1 テーマ

「信州の多様な住まい方について」 ~信州らしい魅力的な住まい方とは~

#### 2 実施概要

## (1)日 時

令和元年8月4日(日)午後3時から午後5時まで

#### (2)場 所

県立長野図書館3階 信州・学び創造ラボ

### (3)参加者

15 名(建築士、建設業者、宅建業者、司法書士、木材事業者、主婦等) 県側: 建設部長、建築住宅課長、信州暮らし推進課長 ほか ※テーマについて、ワークショップ形式でみなさまと対話を行いました

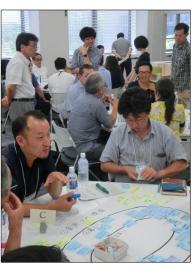
### 3 寄せられた意見

## (1) 信州にある魅力的な資源・文化・環境とは

- ・コミュニティーとの「つながり」が比較的強い 「おすそ分け」、「結」、「お互い様」の文化
- ・都会(東京) とのちょうどよい距離感 遠くも、近くもない、ほどほどの距離感
- ・まちなかと自然との距離感がちょうどよい 仕事前や終わりにも自然が楽しめる 景観として大自然を楽しむことが日常的にできる
- ・水がきれい、温泉が多い

そこから派生する、水路利用、酒蔵、ワイナリー、レジャーの文化が豊富

- ・郊外では渋滞がないが、車社会のため「まちなか」では渋滞が発生
- ・文化財(善光寺、松本城、開智学校、海野宿等)が多い
- ・地域ごとの伝統的な祭り、松本ぼんぼん等の市民参加型の祭りが多い
- ・民芸、クラフト等が生活の身近にあり、クラフトフェア等の発表の場も多い
- ・人口の減少で空き地・空き家が増えて、家と土地が余り、価格が安くなる



#### (2) その魅力を活かした暮らしの姿とは

- ・地域で支え合いながら、血縁関係ではない、「おもいやり」をシェアする暮らし
- ・声が聞こえて、生活の香りがする程良く外部に開かれた、 コミュニケーションのある暮らし
- ・自然やアクティビティを楽しみながら働くワーケーション
- ・週末、仕事・季節ごとに居住地を移す二地域・二拠点居住
- ・生活の中に自然(用水、畑、日本アルプスの景色等)を取り込む
- ・自動運転等の ICT 技術の発展、カーシェア等による、車が無く便利な暮らし
- ・文化財や古民家を動態保存(使用しながら)していく先人の営みを感じる
- ・「特別な日」は文化資源を使用し、「日常」は高機能な住宅で過ごす
- ・路地にある空き家を使い、クラフト等の趣味を活かした小商いをする

### (3) そんな暮らしに相応しい「住まい」の姿とは

- ・自然を無理に住まいに取込まなくても、 ありのままの自然をそのまま活かす住まいが大切
- ・若い人の感覚が変わり、信州で実現できるテレワークや ワーケ―ション等の住まい方の魅力をアピール
- ・車移動でまちを捉えがち、徒歩移動の速度・スケールで まちを捉えた住まい方を提案
- ・終の棲家、財産としての家ではない、新たな住まい方や 家仕舞いの在り方を考えることが求められている
- ・暮らしまでは地域の文化が落とし込めているが、住まい を考えた時に落とし込む方法の検討
- ・決まった家を持たずに身軽に移動ができる不動産シェア
- ・農山村地域ならではの土間・縁側を利用した地域に開かれたコミュニケーションハブの設置
- ・まちの空きスペース(空き家、空き地)を活かした自宅 以外の仕事、趣味、交流、小商い等のプライベート・パ ブリック半々のシェアスペースの検討
- ・地域内循環を生むエコ住宅を推進し、世代間で継承して、 永く使うことができるシステムの構築







